

高橋シズエさん

地下鉄サリン事件で夫・高橋一正さんを亡くす。

営団地下鉄(現:東京メトロ)霞ヶ関駅助役であった高橋一正さんは、地下鉄車両からサリン入りビニール袋を片付けるなどした際にサリンの被害を受け、亡くなった。

高橋シズエさんは、事件の被害者及び遺族等で組織された「地下鉄サリン事件被害者の会」代表世話人を務め、被害者救済のために活動している。



高橋シズエさん

高橋シズエさん手記

2018年7月6日、テレビの画面が一斉に特報に切り替わった。麻原彰晃らの死刑執行だった。私は、かなり冷静だった。執行されたら会見をすることになっていたから、淡々と支度を始めた。

私にとっては、主人の「死」の衝撃以上のことは何もない。彼らは、元々知らない人たちだった。裁判を傍聴しても容易に理解できなかったし、会って話をしたこともなかった。

殺人と刑死、同じ「命を絶たれる」ことでも、決して同じではない。無残にも生きる権利を奪われた夫の「死」と、その罪を償うための「死」。

7月26日に行われた他の死刑囚らの死刑執行からも5か月経つ。いま私は、あの時ほど冷静ではいられない。執行後に出版されることが、必ずしも本人の意図ではないかも知れないが、次々と発刊される本から、彼らに関する個人的なことを読んで、一人の在りし日の物語として、涙を流すこともある。

「これでオウム事件が終わったわけではない」とよく聞くが、その先どうするかは見えてこない。彼らの償いの「死」も無駄にしてはいけないと思う。

(平成30年12月16日記)

[手記『事件から23年』に際して\(平成29年\)へ](#)